株式会社ＩＤＯＭ ＣＦＯの西端です。

令和6年能登半島地震により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。
被災者の救済と被災地域の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

目次

Gulliver

1. 2024年 2月期 第3四半期のハイライト 3
2. 2024年 2月期 第3四半期の実績 9
3. 業績予想の修正 19
4. 2024年 2月期 第3四半期の取組み 22
5. 業績・財務の補足情報 26

2024年 2 月期の第3四半期決算と業績予想について説明します。

Gulliver

1. 2024年 2月期 第3四半期のハイライト

IDOM Inc.

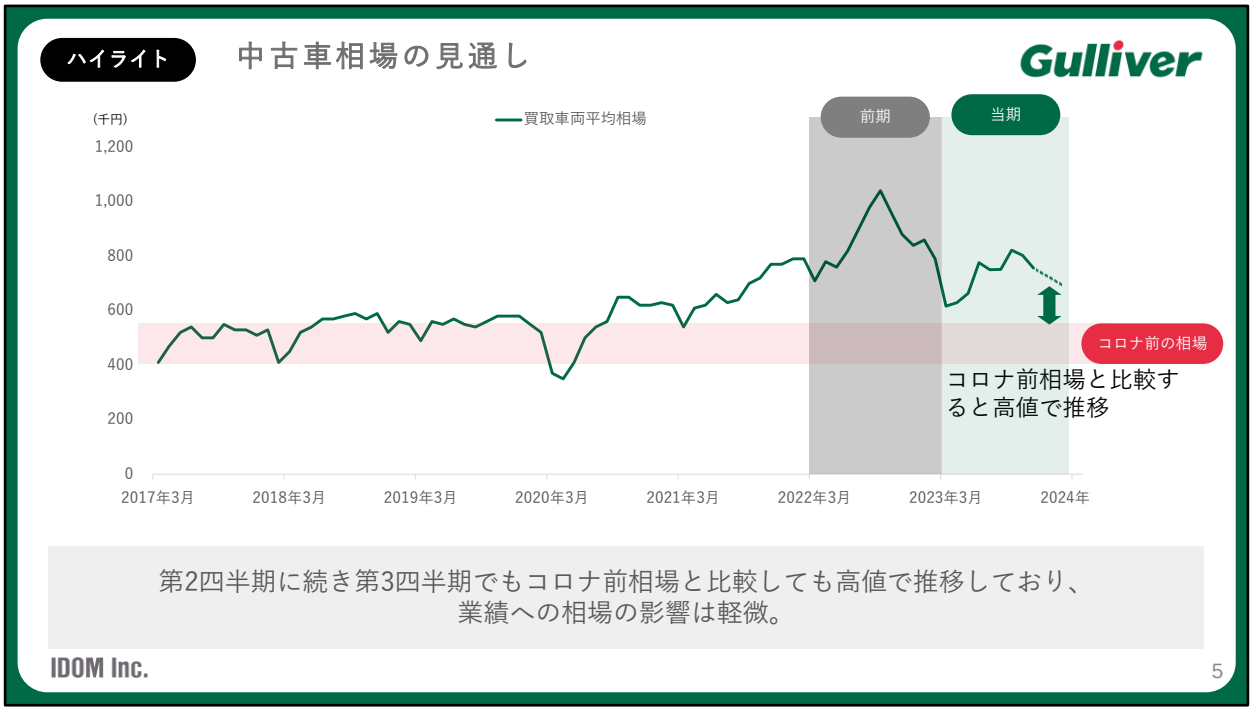
2024年2月期 第3四半期のハイライト

Gulliver

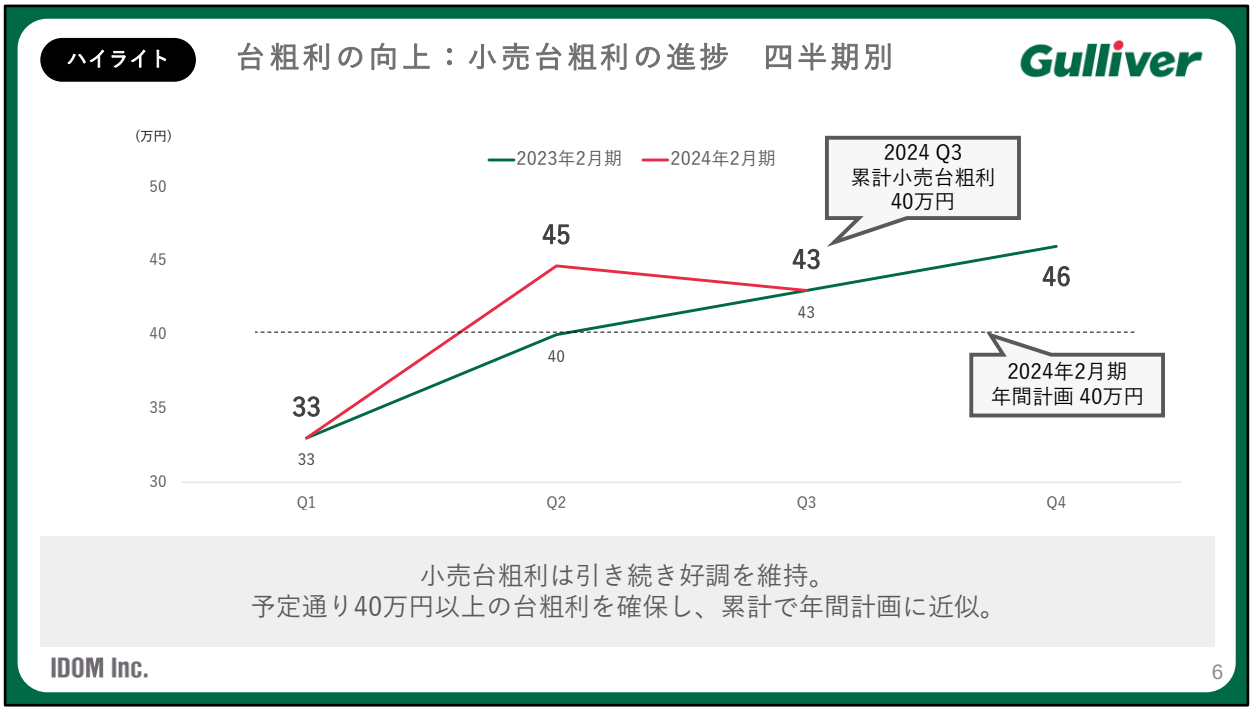
決算 単体売上総利益	売上総利益 516億円 前期比+8.5%	•小売台粗利の好調により過去最高。
決算 来期出店見込み	出店数 15店舗	•中期経営計画の2027年2月期に50店舗出店へ向け出店を加速、当期2024年2月期は11店舗出店計画。
決算 業績予想の修正	連結営業利益 170億円 当初予想比▲10.5%	•将来投資を含む人件費等の増加に対して小売台数の上積みを目指したが当四半期は横ばい。当初予想比▲20億円の修正。

IDOM Inc. ※「2024」表記は、2024年2月期を示す。 4

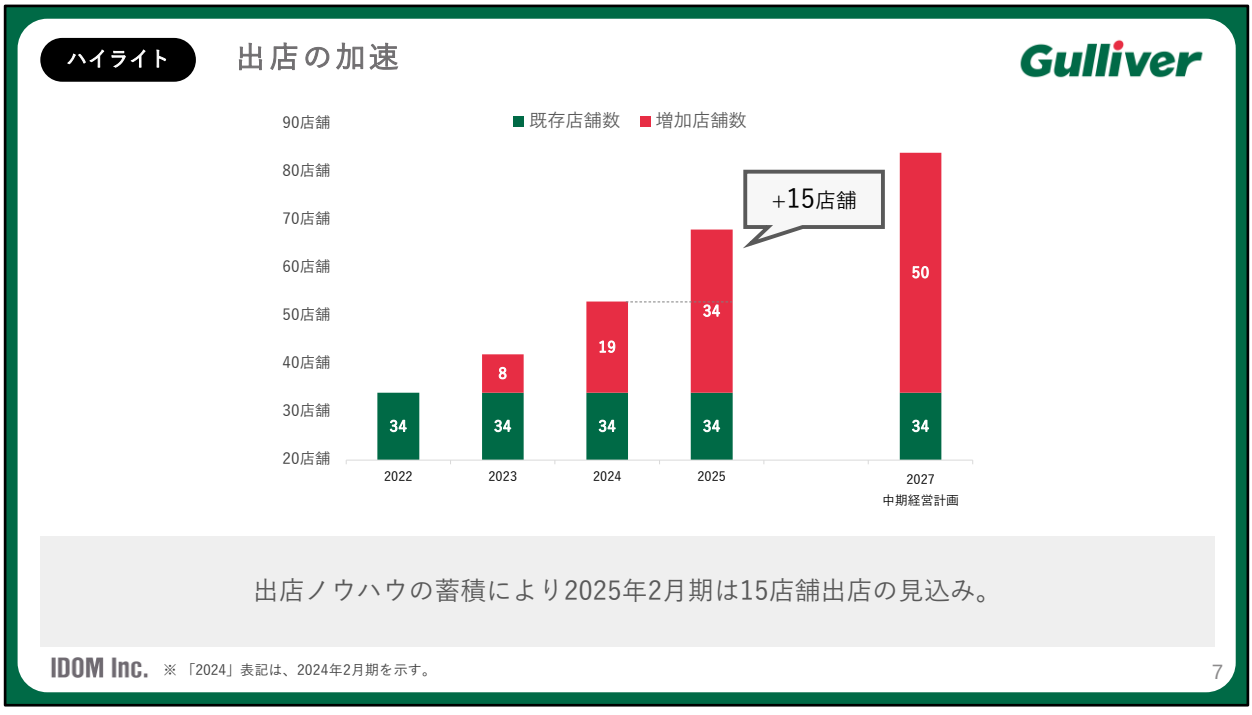
今期のハイライトです。
第3四半期累計の単体売上総利益は516億円と過去最高となりました。
これは、小売台粗利が年間計画通り推移している事が貢献しています。一方、小売台数は前年同期比で微増に留まりました。
大型店の出店は今期11店舗、来期は15店舗の出店が可能になってきました。着実に加速してきています。
このように来期の出店加速の確度が上がってきた事で採用を前倒しして戦力化の為の教育期間を確保しています。目標利益達成の為に小売販売台数の積み増しを目指しましたが、第3四半期の小売台数は昨年並みの横ばいにとどまりました。
売上総利益は過去最高となりましたが、将来投資を含めた販管費増を充分に上回る事が出来ませんでした。
この結果、通期の連結営業利益の予想は190億円から170億円に下方修正致します。



中古車相場の動きをお示しします。
第2四半期に続き、当第3四半期においても相場は高値で推移しました。
この先、中期的にみると緩やかな減少傾向が続くと思われます。ただし、新車価格が高水準であること、物価も全般に上がっていることから、コロナ以前の相場水準までは低下しないとみています。



小売台粗利は引き続き好調を維持しています。
第3四半期3ヶ月間の1台当りの粗利は43万円。第2四半期から好調を維持しています。
今期の9ヶ月間の累計では40万円と当初の通期業績予想の前提に達しています。

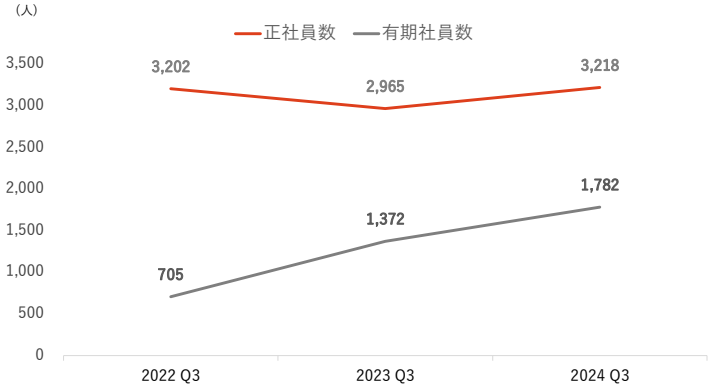


2022年4月に発表した中期経営計画では5年間に50店の大型店を出店すると言うものでした。
23年2月期は8店舗、24年2月期は11店舗、来期は15店舗程度の出店見込みと、ノウハウは蓄積され、順調に出店を拡大してきています。

ハイライト

人員数の増加

Gulliver

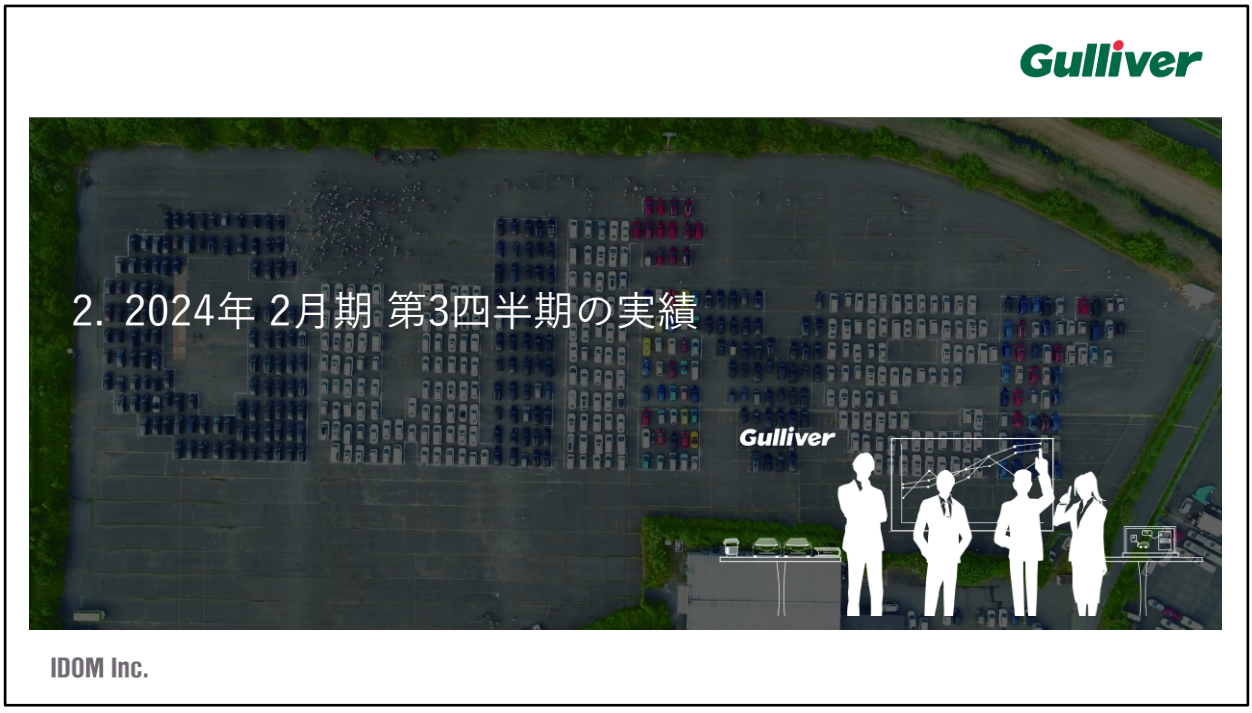


出店加速に伴い正社員数が増加、また有期社員数の採用も積極的に行っており人員数が増加。

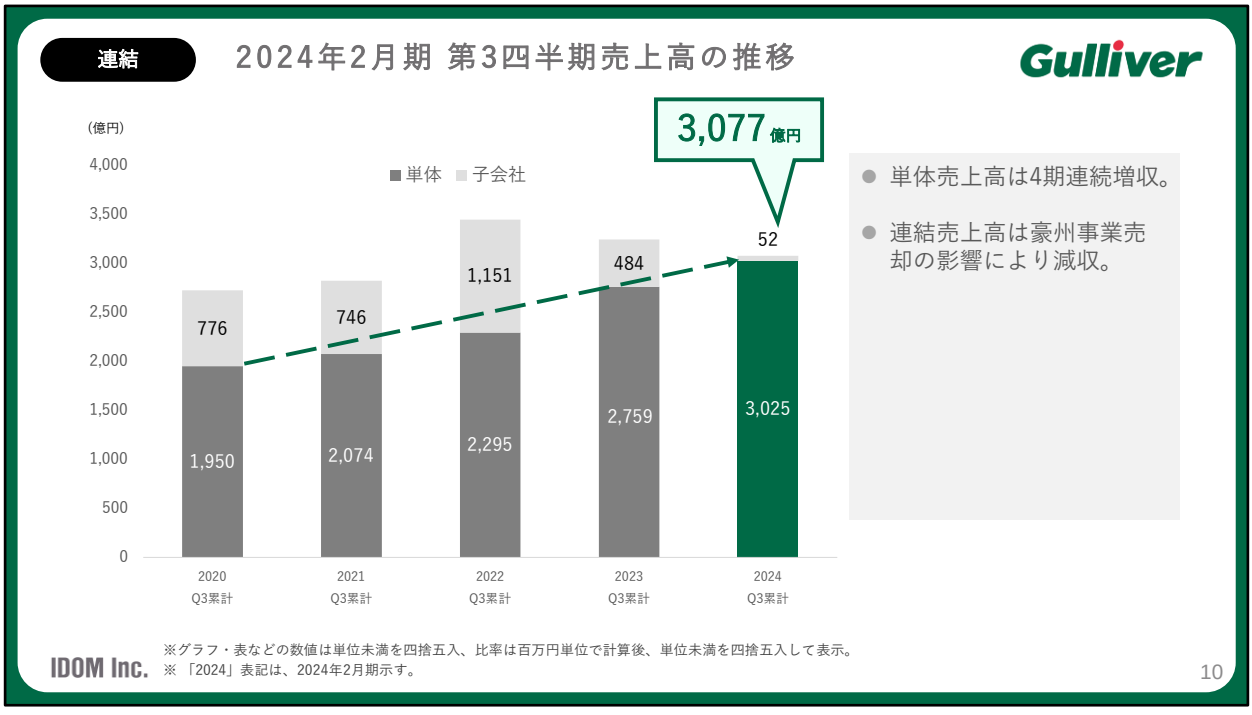
IDOM Inc. ※「2024」表記は、2024年2月期を示す。

8

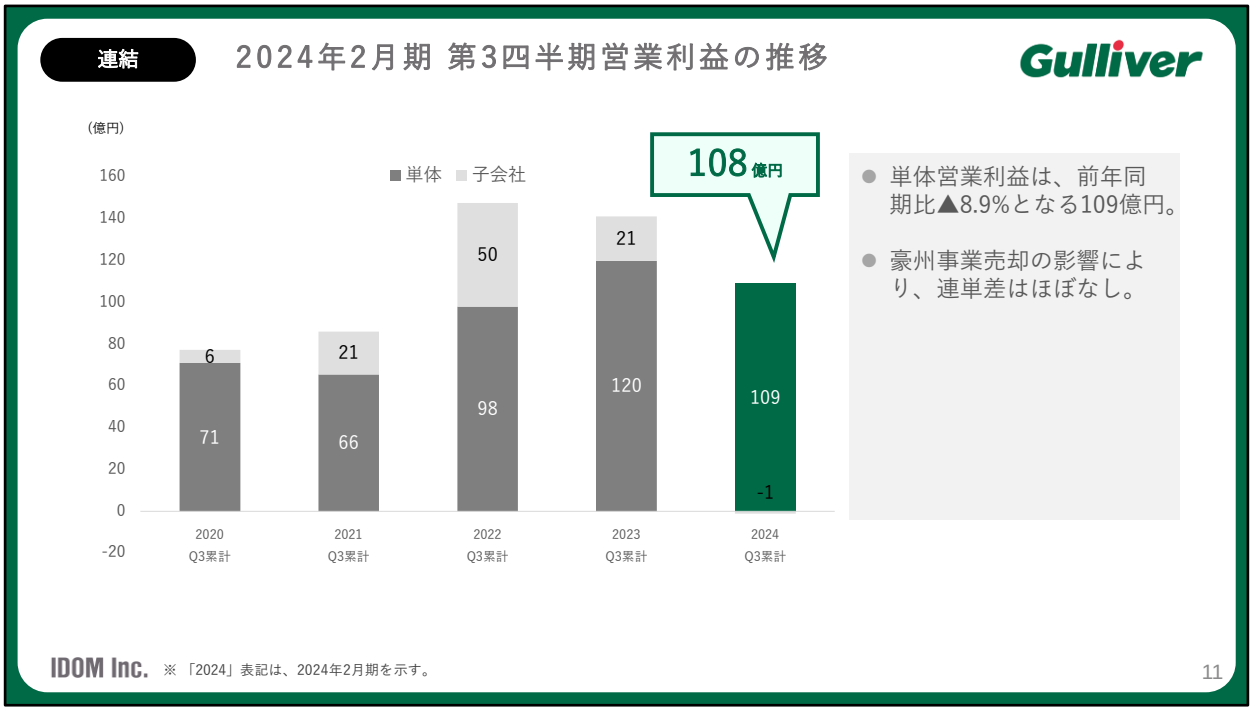
大型店の出店速度の加速と確度の向上を受けて、正社員と有期社員とを増やしてきました。
人員を事前に確保し教育を通じて、今後の台あたりの粗利の確保と小売台数の増加につなげていきたいと考えております。



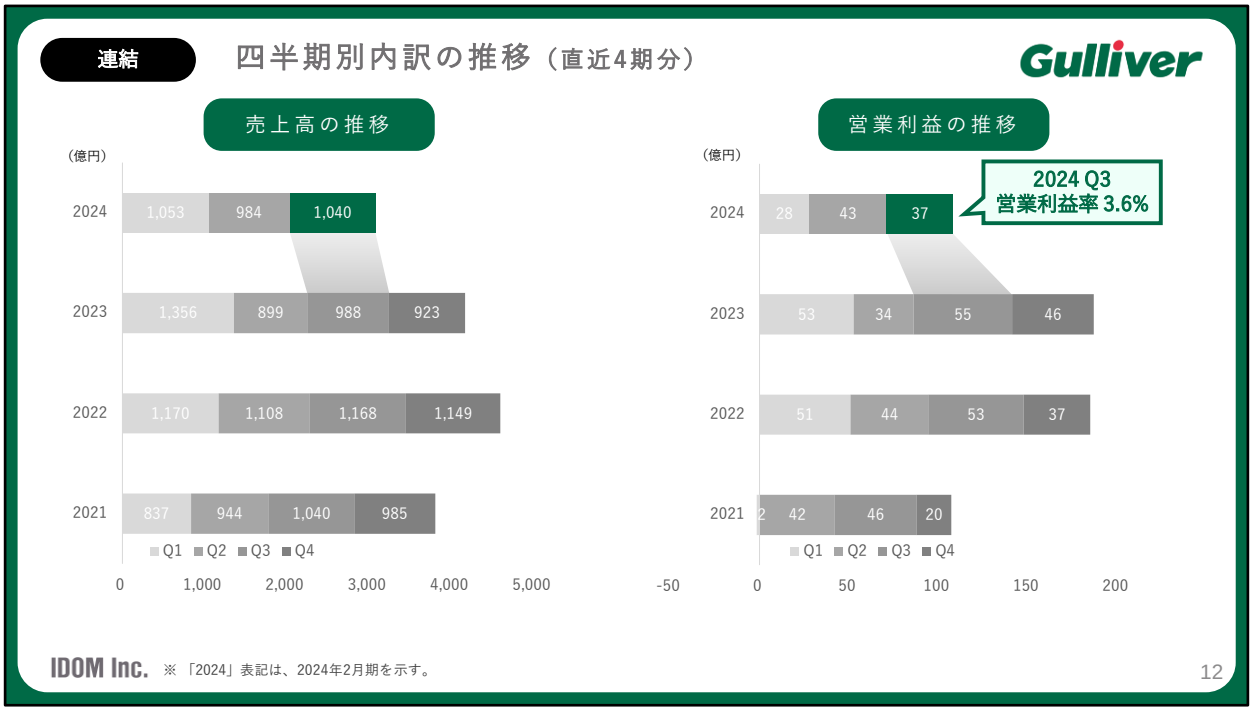
ここから、第3四半期の実績についてお話しします。



このスライドでは第3四半期累計の連結と単体の売上高の推移を説明しています。
連結売上高は前期途中に豪州事業を売却した影響がありましたが、単体は順調に事業を伸ばしています。



次は連結と単体の第3四半期累計の営業利益の推移です。単体は第1四半期の影響をカバーする事ができずに減益となりました。



連結の四半期別売上高と営業利益の推移です。
第3四半期3ヶ月間の営業利益は37億円。
好調だった前年同期の55億円と比較して減益となりました。
営業利益率は3.6%と上期累計の3.5%を上回りました。

連結

2024年2月期 第3四半期P/L実績

Gulliver

（億円）	前期 2023・Q3	今期 2024・Q3	前期比
売上高	3,242	3,077	▲165
			▲5.1%
営業利益	141	108	▲33
営業利益率（%）	4.4%	3.5%	▲23.3%
経常利益	137	106	▲31
経常利益率（%）	4.2%	3.4%	▲22.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	112	72	▲39
四半期純利益率（%）	3.5%	2.4%	▲35.5%

- 豪州事業の売却の影響に伴い減収・減益。
- 前期の四半期純利益は、豪州事業の株式譲渡に伴う税効果の認識あり。
- 今期は通常の税負担率。

IDOM Inc. ※「2024」表記は、2024年2月期を示す。

13

連結の実績PLを前年同期と比較しています。
前期には3ヶ月分の豪州事業のPLが含まれています。

単体

2024年2月期 第3四半期P/L実績

Gulliver

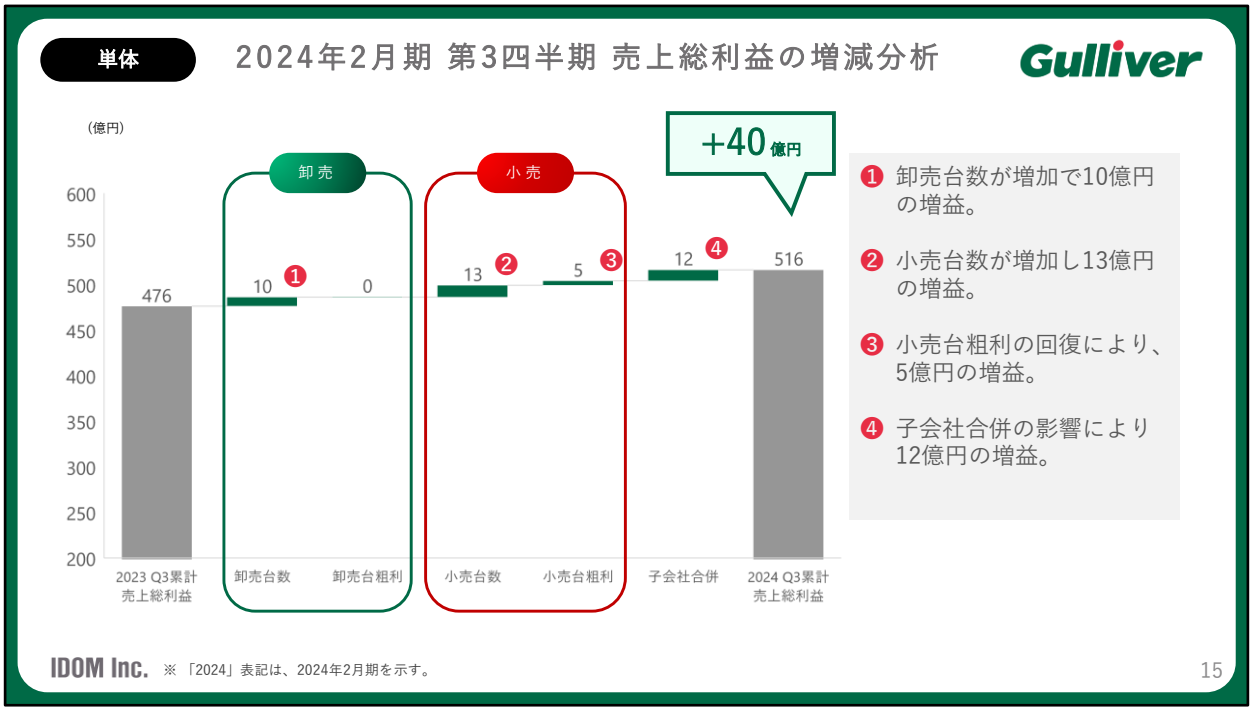
（億円）	前期 2023・Q3	今期 2024・Q3	前期比
売上高	2,759	3,025	+266
			+9.7%
営業利益	120	109	▲11
営業利益率（%）	4.3%	3.6%	▲8.9%
経常利益	117	107	▲10
経常利益率（%）	4.2%	3.5%	▲8.6%
四半期純利益	121	73	▲48
四半期純利益率（%）	4.4%	2.4%	▲39.7%

- 売上高・営業利益・経常利益は増収・減益。
- 当期の四半期純利益は、前期の豪州事業の株式譲渡の特益により大きく減益。

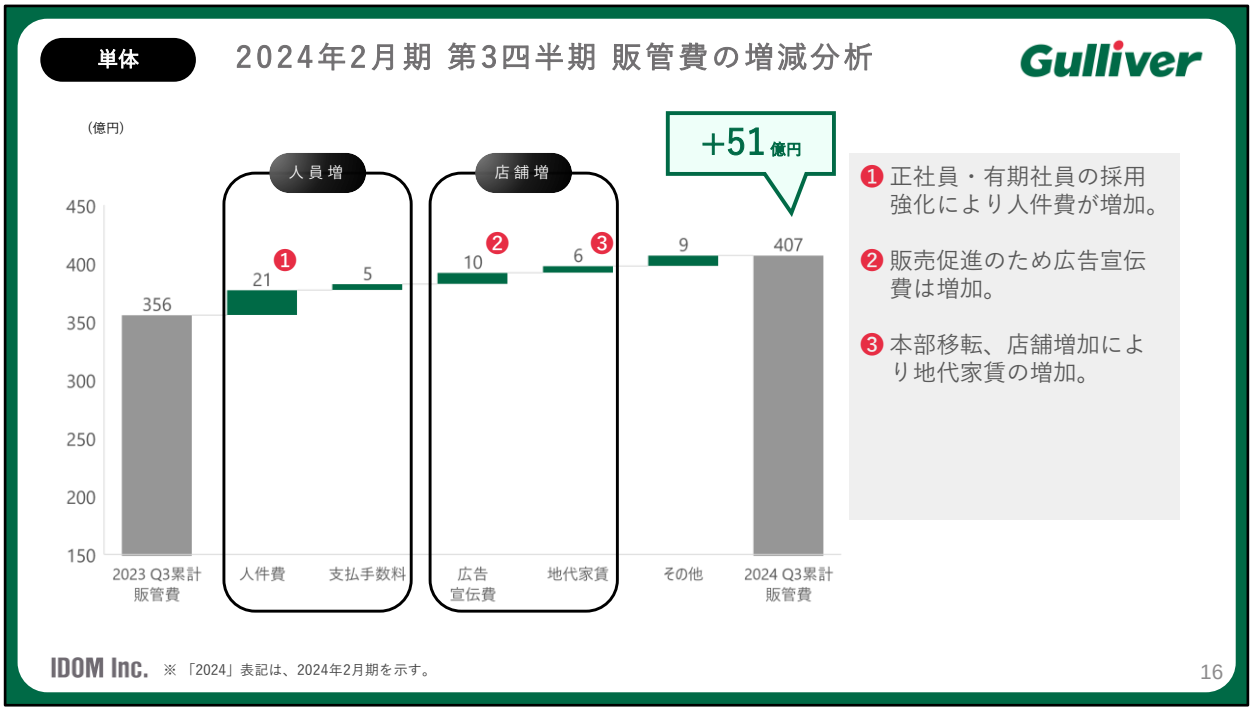
IDOM Inc. ※「2024」表記は、2024年2月期を示す。

14

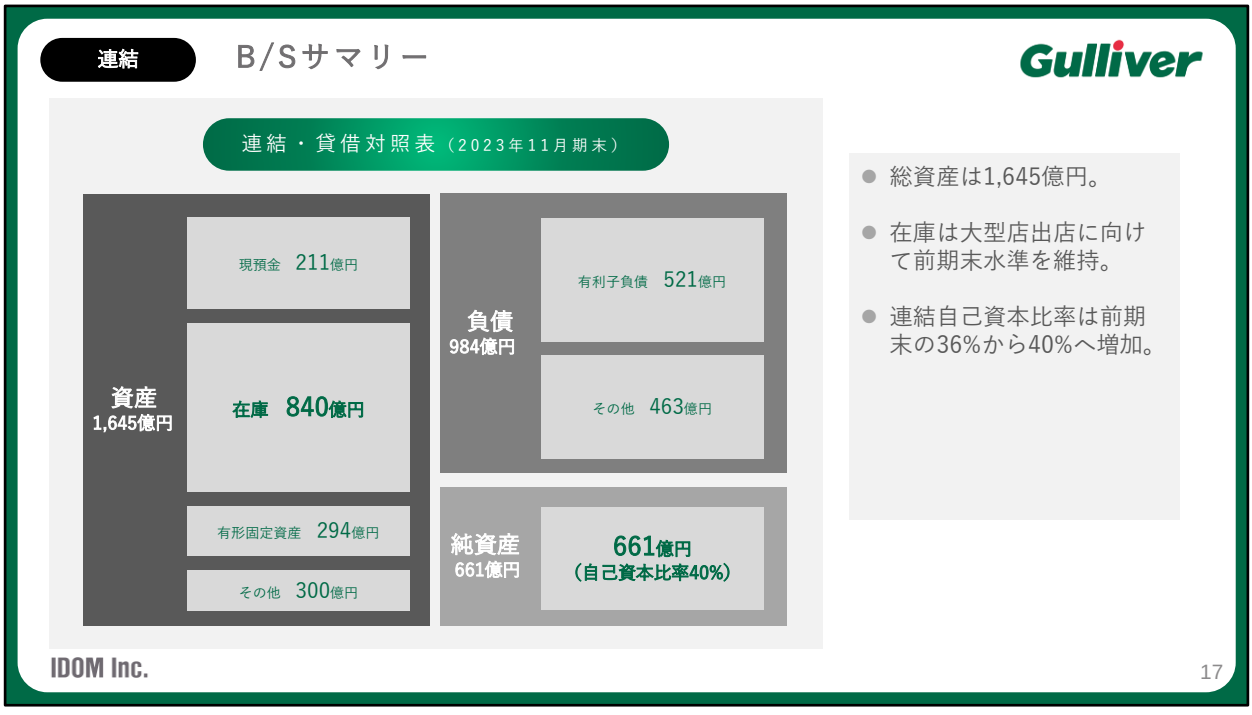
次に単体の第3四半期実績を前年同期と比較します。
売上高は3025億円。前年同期比で266億円の増収です。
営業利益は109億円、経常利益は107億円。それぞれ約9%の減益となりました。
営業利益の増減要因については次のスライドでご説明します。



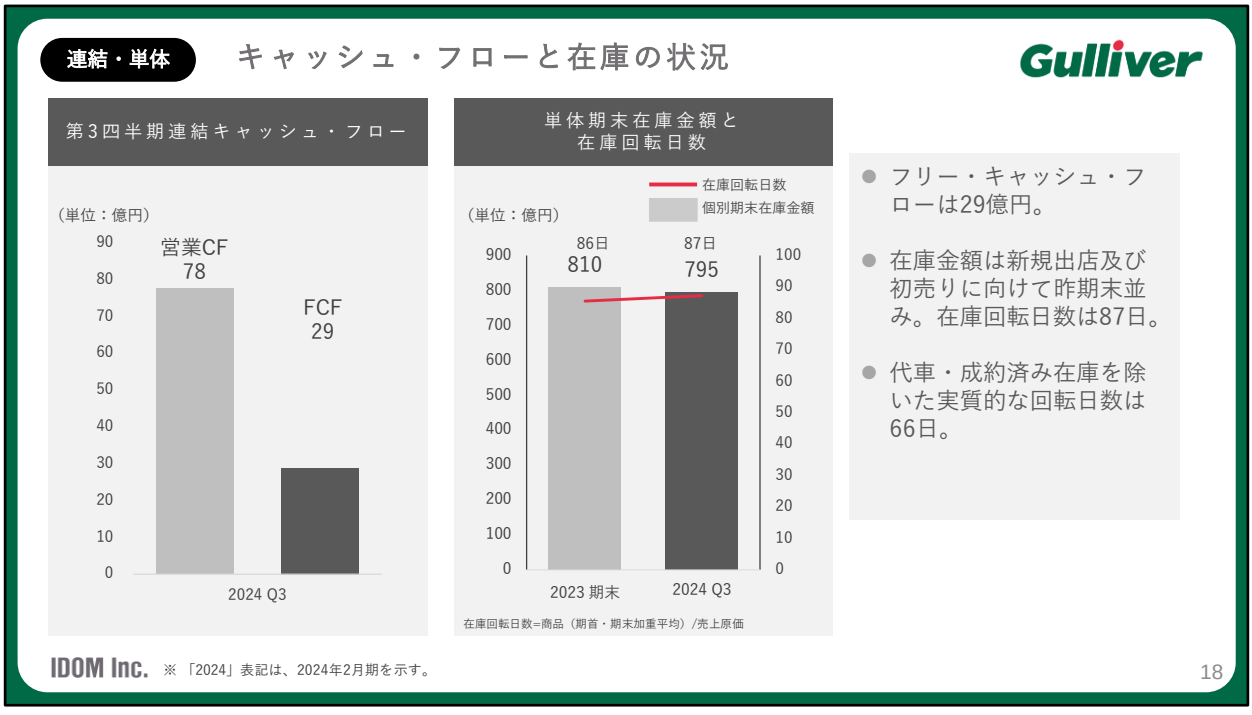
単体の第3四半期累計の売上総利益は40億円増加し、516億円。過去最高の水準となりました。
この増加要因を見ていきます。
卸売については①で示しているように卸売台数が増加したことで粗利は10億円の増益となりました。
小売については、②の小売台数が3%増加し13億円の増加。③の小売の1台当りの粗利は好調を維持して5億円の増加。あわせて18億円の増益要因となりました。



単体の販管費の増減分析です。
今期の大型店舗の新規出店ですが、11月までに4店舗、12月に4店舗が出店しました。更に1-2月に3店舗のオープンが追加され、今期の出店数は合計11店舗となる予定です。
①出店速度は早まっており、来期も今期以上の出店が見込まれます。こうした出店ペースに合わせて、正社員・有期社員の採用を進めております。人材紹介などの支払手数料を含めて、人件費関連として26億円販管費を増加させました。
②について、大型店出店に合わせて広告宣伝費を増加させました。
③では、昨年オープンした店舗が増加した事、去年実施した本社移転後のフリーレント期間が終了した事により地代家賃が増えています。
販管費全体では51億円の増加となっています。



次に連結の貸借対照表をご紹介します。
総資産は1,645億円、前期末比88億円減少しました。
在庫は840億円、前期末比で4億円減少、ほぼ横這いとなりました。
有利子負債は借入金の返済をすすめたことで521億円と前期末比で150億円減少しました。
結果、自己資本比率は前期末比4%改善して40%となりました。



次に連結のキャッシュ・フローと単体の在庫の状況をお話しします。
連結の営業キャッシュフローは当期純利益のプラスや運転資本の減により78億円のプラスとなりました。投資キャッシュフローは第2四半期から22億円増加して49億円の投資を実行して、フリーキャッシュフローは29億円のプラスとなりました。この資金は主に借入金の返済に向けられ、財務体質の改善に繋がっています。
在庫は在庫単価が増加しましたが、台数は減少し、795億円と前期末比で減少しました。
在庫回転日数は87日となっています。この数値は貸借対照表とPLから求めた全在庫の回転日数ですが、契約済み・納車前の車両や代車を除いた相場変動にさらされている在庫の回転日数では66日となっています。改善余地はありますが競合に対しても同レベルの水準と認識しています。引き続き効率的な在庫管理を実施していきます。

次に24年2月期通期の業績予想の修正についてお話しします。

連結

2024年2月期 業績予想の修正

Gulliver

（億円）

	前回予想 2024・通期	修正予想 2024・通期	当初予想比
売上高	4,000	4,220	+220
			+5.5%
営業利益	190	170	▲20
営業利益率（%）	4.8%	4.0%	▲10.5%
経常利益	185	166	▲19
経常利益率（%）	4.6%	3.9%	▲10.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	120	111	▲9
当期純利益率（%）	3.0%	2.6%	▲7.5%

- 売上総利益が台粗利の向上の影響より当初予想比38億円増加。
- 販管費は正社員・有期社員の雇用増、広告宣伝費の増加影響などにより当初予想比60億円増加。
- 新規事業投資を行っていた連結子会社の赤字が2億円減少。

IDOM Inc. ※「2024」表記は、2024年2月期を示す。

20

第3四半期において、販管費の先行投資をカバーする為に、一台当り粗利益水準を維持しつつ、小売台数の計画上積みを目指しましたが、充分に小売台数を伸ばす事ができませんでした。
これを受けて、業績見通しを下方修正致します。
営業利益ベースで通期190億円を20億円修正して通期で170億円と致します。
第4四半期の営業利益が62億円となるチャレンジングな目標ですが、当期までの小売台粗利を維持しつつ、大型店の出店、来場者数の増加、初売りのイベントを持って小売台数を増加させ、達成に向けて取り組んで参ります。

単体

2024年2月期 業績予想の修正

Gulliver

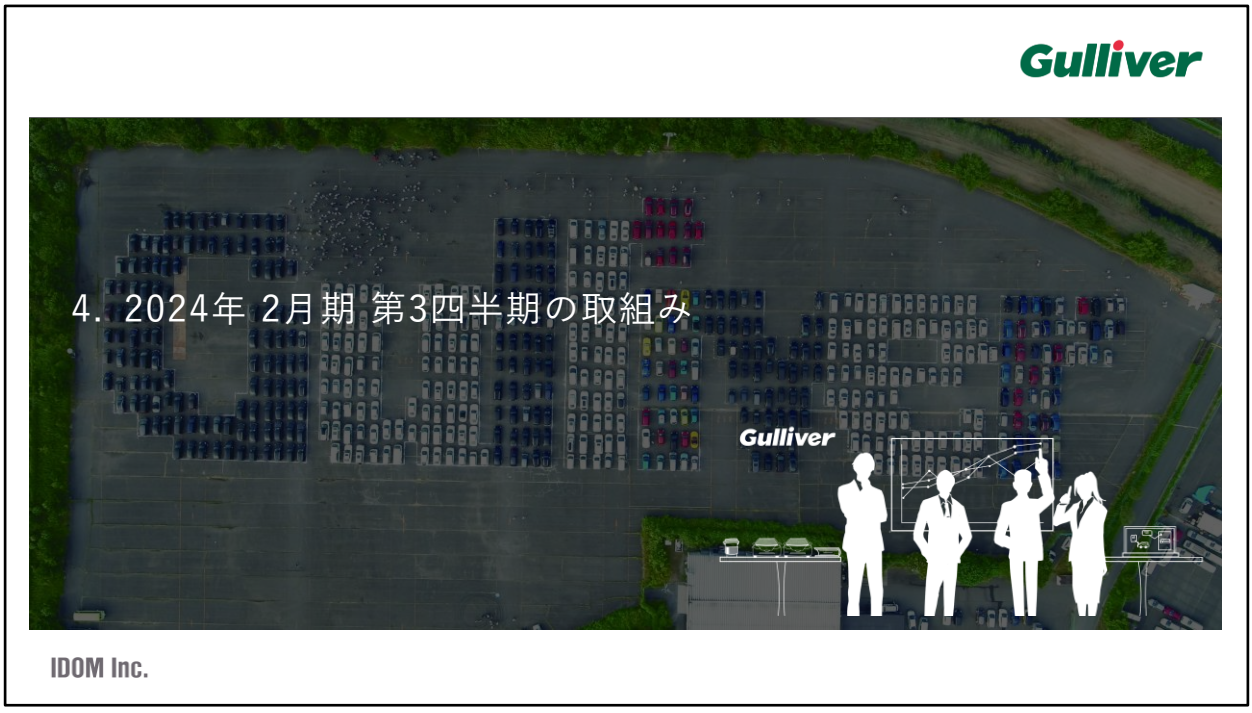
（億円）	前回予想 2024・通期	修正予想 2024・通期	当初予想比
売上高	3,890	4,170	+280 +7.2%
営業利益	196	174	▲22
営業利益率（%）	5.0%	4.2%	▲11.2%
経常利益	191	170	▲21
経常利益率（%）	4.9%	4.1%	▲11.0%
当期純利益	127	116	▲11
当期純利益率（%）	3.3%	2.8%	▲8.7%

- 売上総利益が台粗利の向上の影響より当初予想比38億円増加。
- 販管費は正社員・有期社員の雇用増、広告宣伝費の増加影響などにより当初予想比60億円増加。

IDOM Inc. ※「2024」表記は、2024年2月期を示す。

21

このスライドは単体の業績予想を示しています。



最後に第3四半期のビジネスの状況についてお話しします。

出店　新規OPENした大型店

Gulliver

秋田御所野店（2023年9月オープン）

秋田県秋田市

直近の店舗展開

【Q3新規大型店オープン】
- 秋田御所野店（2023年9月）
- 八幡店（2023年9月）
- 札幌手稲店（2023年9月）
- 高崎菅谷店（2023年11月）

※2023年11月出店予定のいわき小名浜店は12月にずれ込みOPEN。

今期の新規大型店の出店数 ＋ 4 店舗

通期進捗	4/11 店舗
大型店舗数	46 店舗（2023年11月末現在）

IDOM Inc.　23

この3ヶ月間の出店の状況についてご説明いたします。
2023年9月に秋田、福岡の八幡、札幌の3箇所で、11月には高崎で出店しています。
大型店は累計で46店舗となりました。
12月にはいわきでオープンしており、今期計画の11店舗は達成する見込みです。
出店のスピードは着実に上がって来ています。

出店

新規OPENした整備工場

Gulliver

秋田御所野整備工場（2023年9月オープン）

秋田県秋田市

直近の店舗展開

【Q3新規整備工場オープン】
・秋田御所野整備工場（2023年9月）
・高崎菅谷整備工場（2023年11月）

今期の整備工場の出店数 ＋2 工場
※カメラ設置完了工場数4工場
※全工場設置予定

整備工場数	24 工場 うち15工場が 指定工場取得済み

IDOM Inc.

24

大型店の内、秋田・高崎が整備工場併設店です。
今期、2工場の稼働を行い、現在、24工場が稼働し、内、15工場が指定工場となっています。
カメラは4工場で設置が完了しています。全工場設置に向けて取り組んでいます。

第3四半期では先行投資に対して充分な売上総利益をあげる事ができず下方修正となってしまいました。大型店出店の加速や粗利の水準など着実に成果は出て来ていると認識しています。期末に向けてチャレンジングな業績目標ではありますが、達成に向けて挑んで参ります。
引き続き、IDOMの成長に期待していただければと思います。